

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

<b>■授業の目的と概要(Course purpose/outline)</b>			
<p>専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、各学生が興味を持って研究できるテーマを見出し、卒業論文の作成について学習することを目的とする。研究テーマの内容は、人間のこころや行動について考える。例えば、教育現場の問題（いじめ、不登校、非行、暴力、発達障害等）、心の病の問題（うつ、自殺等）、社会の問題（ジェンダー、DV等）、自己の問題（自信のなさ、自己尊重感、自己概念等）、これらの領域を中心とする。研究テーマを探す方法としては図書館での本や論文の検索、インターネットでの検索等を行い、資料の取り寄せが行えるようになる。なお、心理コースの全体講義および各担当教員による個別演習とともに、対面での指導とリモート授業（リアルタイム、オンデマンド）を使い分けて実施する。</p>			

<b>■授業形態・授業の方法(Class form)</b>	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	<p>講義と演習形式で授業を行う。専門演習Ⅰでは文献研究を主体とした少人数のグループワークでの研究を行う。全体での講義をはさんで、グループで研究テーマの決定、論文の作成へと進む。発表内容の共同制作とディスカッションを経て研究成果をパワーポイントにまとめ、最後にプレゼンテーションを行う。なお、シラバス内容やその実施回は、進捗状況等に応じて柔軟に調整・変更するので注意すること。</p>

<b>■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)</b>			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス 専門演習Ⅰの進め方	専門演習Ⅰの授業の概要、事前事後学習、受講の注意	<input type="checkbox"/>
第2回	全体講義Ⅰ テーマの決定、構想を考える、先行研究を探す	1. 論文とは 2. 文献研究の論文の書き方	<input type="checkbox"/>
第3回	個別演習Ⅰ (1) テーマを決定し構想を考える	「何が問題なのか」「なぜ問題なのか」を考える	<input type="checkbox"/>
第4回	個別演習Ⅰ (2) 背景説明	1. 事物の説明、2. 先行研究の紹介	<input type="checkbox"/>
第5回	個別演習Ⅰ (3) 問題提示	1. 問題点を指摘する 2. 疑問を示す先行研究を明らかにする	<input type="checkbox"/>
第6回	個別演習Ⅰ (4) 方向づけ	1. 論文の目的を示す 2. 問題提起で示された問題の解決方法が分かるようにする	<input type="checkbox"/>
第7回	全体講義Ⅱ 本論の概略	本論の流れについて議論する	<input type="checkbox"/>
第8回	個別演習Ⅱ (1) 論拠を示す論文等を探す	図書館やインターネットを使って論拠を示す資料を探す	<input type="checkbox"/>
第9回	個別演習Ⅱ (2) 論拠の提示	資料とデータを書き分ける	<input type="checkbox"/>
第10回	個別演習Ⅱ (3) 意見の作成	先行研究と意見を使って、論拠を示す	<input type="checkbox"/>
第11回	個別演習Ⅱ (4) 結果の証明	論拠と意見を使ってなぜそのような結論になるのかを証明する	<input type="checkbox"/>
第12回	全体講義Ⅲ 発表の仕方	全体のまとめ方と分かりやすいプレゼンテーション	<input type="checkbox"/>
第13回	個別演習Ⅲ (1) 発表をまとめる	発表資料の作成	<input type="checkbox"/>
第14回	個別演習Ⅲ (2) 個別演習内での発表	各担当教員による個別演習内で発表する	<input type="checkbox"/>
第15回	全体講義Ⅳ 心理コースでの発表会	1. 発表する 2. 全体で振り返りを行う	<input type="checkbox"/>

<b>■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)</b>	
<p>心理や生活、社会について関心のあるテーマを調べておく。次の授業に向けて必要な論文・資料の収集、読み込み、整理などをしていくこと。（2時間） 事後学習として、授業内で提示された内容や収集した論文・資料の振り返りと研究発表資料の作成に向けた準備をすること。（2時間）</p>	

<b>■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)</b>	

毎回、講義後に進捗状況の報告が課され、次回の授業の冒頭で講評する。研究発表の資料作成について適宜指導・助言を行う。

### ■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心理学研究を基盤として、問題意識を持ったテーマの設定、資料収集、発表資料の作成、研究発表ができる。

### ■成績評価 (Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

### 授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

演習科目であるので、作業・ワークなどに取り組む姿勢を「その他」として評価とする。また、その時々発表資料や小レポートなどにより、理解力や達成度を「授業内試験」として評価する。

### ■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

### ■参考図書 (references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		